

野外観察園サテライト展示

「写真展 名大生物研による“名大”のここにいる！ 可愛い鳥たち」

Photo Exhibition at Botanical Garden Seminar House “Cute Birds on the Higashiyama Campus of Nagoya University”

宇治原 妃美子 (UJIHARA Kimiko)¹⁾・吉野 奈津子 (YOSHINO Natsuko)²⁾・
三宅 旦将 (MIYAKE Akimasa)³⁾

- 1) 名古屋大学博物館
- 2) 名古屋大学全学技術センター
- 3) 名古屋大学情報学部

464-8601 名古屋市千種区不老町 名古屋大学博物館
Nagoya University Museum, Nagoya University, Furo-cho, Chikusa-ku, Nagoya, 464-8601, Japan

1. はじめに

本稿は、名古屋大学博物館野外観察園セミナーハウス2Fにおいて開催された野外観察園サテライト展示「写真展 名大生物研による“名大”のここにいる！ 可愛い鳥たち」の記録（図1）である。名古屋大学生物研究会の学生から名古屋大学東山キャンパスの鳥たちと、植物を紹介する写真展を開催したいと依頼があり、野外観察園の魅力も併せて市民に周知できるものと考え、本展示を開催することとした。

2. 展示開催の概要

会期：2023年10月2日（月）～2023年12月22日（金）

会場：名古屋大学博物館野外観察園セミナーハウス2F

主催：名古屋大学博物館

協力者：名古屋大学生物研究会：鈴木 百代（名古屋大学農学部）、柴山 潤太（名古屋大学大学院生命農学研究科）、周戸 大季（名古屋大学大学院理学研究科博士後期課程）、武田 和樹（名古屋大学経済学部）、中村 拓海（名古屋大学農学部）



図1 野外観察園サテライト展示「写真展 名大生物研による“名大”のここにいる！ 可愛い鳥たち」のようす。

3. 展示物

本展は、名古屋大学生物研究会の三宅が東山キャンパス内で撮影した鳥の写真と、野外観察園担当の吉野が植物写真を用意し、宇治原が展示レイアウトや展示ポスター及びタペストリーデザインを行なった。他、鳥の鳴き声タッチペンや、鳥の仮剥製標本、クイズコーナーも設置した。クイズは三宅が考案し、クイズ問題となる「鳥の羽根」なども設置した（図2）。

チラシ（両面）、ごあいさつ、展示タペストリー・ポスター

チラシの表面は、開催時期が秋から冬だったため、山吹色の胸の羽根をもつジョウビタキと、紅葉したハナミズキの葉が写っている画像を採用し、タイトル文字を赤色にして温かみがある色合いにした。またチラシの裏面は、生物研究会が作成した「名大東山キャンパス鳥観察マップ」とし、市民がマップを見ながら、キャンパス内の散策と鳥観察ができるものとした（図3）。



図2 鳥の仮剥製標本とクイズ。



図3 チラシ両面。

ごあいさつ

名古屋大学東山キャンパスには豊かな自然林があり、水辺もあり、年間を通じて様々な野鳥が見られ、その数は50種近くにも上ります。

名古屋大学の学生サークル「生物研究会」では鳥・植物・昆虫など、さまざまな分野について調査を行っており、東山キャンパス内の野鳥については、月1回のバードセンサス（野鳥観察会）を50年近く続け、データを蓄積してきました。

これまでも博物館は生物研究会の力を借りて、東山キャンパス内の野鳥の写真やデータの展示を行ってきました。今回は、同研究会の三将さんを中心に鳥の写真を集めていただき、東山キャンパス内の野鳥の紹介に取り組みました。

エリアによって棲んでいる野鳥もさまざまです。バードセンサスのデータをもとにマップを作成しましたので、野鳥を探しつつキャンパス内の散策にお出かけください。よく見かけるけれども名前は知らない鳥の名前が、今日明らかになるかもしれません。

今回は鳴き声を聞くことができるボイスペンもご用意しました。野鳥の姿と共に鳴き声も楽しんでいただき、キャンパス内の自然に興味を持つきっかけとなっただけたら幸いです。

名古屋大学博物館長 吉田英一

名古屋大学東山キャンパスを5つのエリア（1:野外観察園・南部生協周辺エリア、2:鏡ヶ池エリア、3:農学部・理系食堂エリア、4:森林エリア、5:運動場周辺エリア）に分け、それぞれのエリア毎よく観察できる鳥の写真数枚と、植物の写真1枚を、タペストリーや大判用紙にレイアウトした。

1: 野外観察園・南部生協周辺エリア紹介

タペストリー（W610, H1900）4枚で作成（図4）。以下、野外観察園・南部生協周辺エリアの写真タペストリーに記載したキャプション。

街に溶け込む野鳥の姿を見られ、多くの種類が環境に適応し暮らしています。特に冬は鳥たちの声でにぎやかです。植物は、植栽樹木が主ですが、果実のできる樹木も意外とたくさんあります。

植物：センダン（センダン科）

鳥：マヒワ（アトリ科）黄緑色の体に黒いベレー帽をかぶっている。群れで集まって木の実を食べる。／スズメ（スズメ科）冬は丸くなっていてかわいい。／アオジ（ホオジロ科）ヤブや植え込みにひそむ鳥。オスは写真のようにサングラスのような黒いもようがある。／ツグミ（ツグミ科）冬、落ち葉がガサガサしていたら大体ツグミがいる。よく跳んでエサを探しているのを見かける。

2: 鏡ヶ池エリア

タペストリー（W610, H1900）6枚で作成（図5）。キャプションは以下の通り。

名大内では珍しく、カワセミやカイツブリといった水鳥も観察できます。名大内での初めての野鳥観察にぴったりのエリアです。整備されているので植栽樹木が多いですが、ヤマナラシなど学内ではここにしかない植物も見られます。

植物：ヤマナラシ（ヤナギ科）

鳥：カイツブリ（カイツブリ科）池で「キョロロロ、」と大きい声で鳴いていたカイツブリ。親は背中にひなを載せて泳ぐ。／ゴイサギ（サギ科）日本画から飛び出してきたかのような美しい

鳥。しかし夜行性ということもあり、日中の行動はどこかどんくささを感じる。ヒヨドリ（ヒヨドリ科）センダン（写真）からサクラ、タンポポまで色々よく食べる。意外にも日本近辺にしかない。／カルガモ&マルガモ（カモ科）カルガモは鏡ヶ池で見られる数少ないカモである。マルガモはマガモとカルガモの雑種。／カワセミ（カワセミ科）飛ぶ宝石。鳴き声が自転車のブレーキ音に似ているので、近頃ブレーキ音に反応するようになってしまった。／セグロセキレイ（セキレイ科）ハクセキレイと違い背や目の下も黒い。ほぼ日本でしか見られないカッコいいセキレイである。

3：農学部・理系食堂エリア

タペストリー（W610, H1900）4枚で作成（図6）。キャプションは以下の通り。

林に加え田畑があるエリアで、森林エリアに劣らず様々な鳥がおり、また比較的観察のしやすいエリアです。大学が整備されたところに植えられた木も多く残っていてうっそうと茂っています。林縁にはカラスウリなどのつる植物が日光を求めて樹木の上にマントのように広がっています。

植物：カラスウリ（ウリ科）

鳥：アオサギ（サギ科）何でもよく食べる。婚姻色（夏に繁殖する時期の色）のクチバシはピンクで非常に美しい。／コゲラ（キツツキ科）／シジュウカラ幼鳥（シジュウカラ科）全体的に色がうすくぼわぼわしている。幼鳥は巣立ち後一定期間親とともに行動する。／ヤマガラ（シジュウカラ科）よく人になれ、器用に木の実を割って食べる。冬はシジュウカラやメジロと一緒にいることが



図6 農学部・理系食堂エリアの写真タペストリー。

多い。／ハクセキレイ（セキレイ科）尾羽をフリフリしながら歩く。駐車場でよく見かける種類。ハシボソガラス（カラス科）くちばしが細めなカラス。似た種にハシブトガラスがいるが、名大ではこちらのほうが多い。／コサメビタキ（ヒタキ科）見つけやすい渡り鳥。オレンジ・黒のくちばしとくりくりの目がチャームポイント。

4：森林エリア

ポスター4枚（W610，H1900）で作成（図7）。キャプションは以下の通り。

2つの谷を中心としたエリアで、数多くの渡り鳥が観察されています。ただ、木がうっそうとしており、撮影には不向きかもしれません。最初に生えていたマツが枯れ、ドングリの実る木が多いです。鳥が果実を食べてフンで散布された植物も見られます。

植物：ザクロ（ミソハギ科）

鳥：ツミ（タカ科）ハトほどの大きさの猛禽。小さいが猛禽らしい勇猛な顔をしている。

都会に進出してきているようである。／シロハラ（ツグミ科）冬に林床からガサガサ音が聞こえたら大体シロハラがいる。一所懸命に落ち葉をひっくり返してエサを探しているところがかっこいい。／ルリビタキ（ヒタキ科）わきのオレンジとつぶらな瞳が愛くるしい。完全に青い個体はレア。／メジロ（メジロ科）／コゲラ（キツツキ科）日本最小の都会派キツツキ。意外にも大きい声で「ギーッ」と鳴く。シジュウカラやメジロと一緒に行動していることが多い。



図7 森林エリア写真ポスター。

5：運動場周辺エリア

ポスター（W1100，H1900）2枚で作成（図8）。キャプションは以下の通り。

開けた場所が多く、ムクドリなど地上にいる鳥を観察しやすく、森林エリアと接する山の上は小鳥を見やすい場所です。このエリアはキャンパス内で標高が高い位置にあり、林縁など日当たりがよい所にはマツが残っています。カキノキなどおいしい果実の実る木もあります。（自生のものは渋柿であることが多い）

植物：カキノキ（カキノキ科）

鳥：シジュウカラ幼鳥（シジュウカラ科）／スズメ幼鳥（スズメ科）まだクチバシが黄色くあどけない様子。／メジロ（メジロ科）いわゆる「ウグイス色」の鳥で、花のミツを吸うのでくちばしに花粉をつけがち。アイリングがランドルト環（視力検査のC）に似ている。／エナガの幼鳥（エナガ科）パンダ柄がかわいい。成鳥と違いアイリングが赤色になっている。／エナガ（エナガ科）黒マユがりりしい日本最小級の鳥。コケをクモの糸やビニールひもで絡めて丸い巣を作る。



図8 運動場エリア写真ポスター。

4. 関連イベント

10月21日（土）に開催された、名古屋大学ホームカミングデーに、生物研究会メンバーによる展示解説を開催した。また、生物研究会からの提案により、市民向けのイベントとして、「名大東山キャンパス 鳥観察会&写真展ギャラリートーク」を11月23日（木・祝）9：00～11：30（WEB事前申込制 先着15名）を開催した。

本イベントが企画されたのが会期途中であったため、イベント告知文を追加したチラシを増版し市内に配布した他、博物館ウェブサイトやソーシャルメディア、生物研究会のソーシャルメディアなどでも周知した。

参加対象は、どなたでも（小学生以下は保護者と参加）としたため、小学生以下の子どもなども多数含まれた幅広い年代が参加したイベントとなった。

イベント当日は、参加者は最初にセミナーハウス1Fに集合し、生物研究会メンバーから双眼鏡の使い方のレクチャーを受けた後、東山キャンパスの植物も観察しながら鏡ヶ池エリアに向かった。参加者は、生物研究会のメンバーからのアドバイスを元に、ヒヨドリやマガモなどを観察することができた。

セミナーハウスに戻ってきた後、2Fで開催されたギャラリートークでは、生物研究会の三宅から写真に写っているアオサギなどの鳥の紹介があり（図9）、周戸からは鳥の動画などを参加者に見てもらいながら、東山キャンパスの鳥たちの様子を紹介した。

展示期間の来場者は1555名であった。会場のテーブルには感想を書いてもらうノートや、付箋に感想を書いてもらって貼ってもらう「ご感想ボード」を設置したが、「意外と名大近くにも鳥が多くておどろきました」や「鳥がとてもかわいくバードウォッチングしたくなりました」などの多くの感想が寄せられた。



図9 ギャラリートークの様子。